

彩の歳時記

平成二十六年 十二月

「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ

俵万智「サラダ記念日」

「教科書で見ました！まだ生きてたんですね！」と言われる事もがあると語る女流歌人で現代の与謝野晶子と称される俵万智【1962・12・31〜】の名歌。

日常の一シーンを切り取った表現は卓越。「寒いね」という何気ない言葉で共感し合える「家族・友達・仲間」が傍にいてくれる幸福に気づかず日々暮らしている私たち。一年を振り返り、支え合った隣人たちに感謝して、締め括りたいものです。



十二月の暦

師走 師馳せ月 正月も盆と同様、祖先の霊を弔う月で法師や導師が馳せる月。

二日 橘始めて黄ばむ【七十二候】は【二十四節気】をさらに三分し、気象・動植物の変化

を知らせる短文。左近の桜、右近の橘「タチバナ」で有名なタチバナには、日本の「ニホンタチバナ」と中国渡来の「カラタチバナ」略「枳(カラタチ)」があるが、白秋の「カラタチの花が咲いたよ。白い花が咲いたよ。」は、枳(カラタチ)。



七日 大雪【二十四節気】山岳だけでなく、平野にも降雪、寒さが日ごとに増しスキー場がオープン。

八日 太平洋戦争開戦の日 1941年のこの日、日本海軍のハワイの真珠湾急襲により太平洋戦争の火ぶたが切っておとされた。最後の開戦記念日になるように。

九日 漱石忌：二年後の百年忌に向け、記念特集・事業が展開されている近代小説家の代表、



夏目漱石【1867～1916】の忌日。生誕地新宿・メトロ東西線「早稲田前」の出入口側に「夏目漱石生誕の地」の碑。その前の坂道は「夏目坂」奥に「夏目公園」と続く。

碑にある家紋は旗本夏目氏の紋「井桁に菊」で漱石も用いたとある。作品には、生後すぐ養子に出された後、長男次男の死により復籍という生い立ちが深く影を落とし、近代人の苦悩が描かれている。子規や虚子と親交、「我輩は猫である」は処女作。「坊ちゃん」「草枕」「三四郎」「それから」他。1984年から2004年までの千円券の肖像



十日 ノーベル忌 ダイナマイトを発明したノーベル【1833～1896】の忌日。その莫大な遺産を学術・平

和など五部門に貢献した人物に贈るといふ遺言により「ノーベル賞」が設けられ、生誕地のストックホルムでこの日、ノーベル賞授賞式が行われる。今年には物理学賞に赤崎勇氏・天野浩氏中村修二氏の日本人研究者3人が選ばれた。

十三日 正月事初め 年神様を迎える準備を始める日。

十八日 東京駅の日 1914年(大正3年)、東京駅が新築、落成。開業100周年にあたり、



12月1日～2015年1月12日までグランルーフにイルミネーション ↓ 記念SUICAの発売など東京駅百周年記念イベントを開催。

二十二日 冬至【二十四節気】一年中で夜が一番長い日。「冬至」湯治「柚」融通「冬至」



の掛詞も。柚子湯は柚子の木の寿命が長く虫に強いのに因み、無病息災を願う。

二十三日 天皇誕生日 今上天皇明仁【125代】は八一歳を迎えられ、一般参賀が行われる。



また、傘寿を記念して紅葉の時期に合わせ「秋季皇居乾通り一般公開」も実施。

二十五日 クリスマス イエス・キリストの誕生日



十二月の歌

ペチカ

詞 北原白秋

曲 山田耕柞



雪の降る夜は
楽しいペチカ
ペチカ燃えろよ
お話ししましょ
むかしむかしよ
燃えろよペチカ
語略

ロシア民謡と思われるが、もともとは1924年(大正13)から1927年(昭和2)発行の「満州唱歌集」に収録された作品。白秋が満州を旅した際目にした光景をうたったものといわれる。ペチカは北欧生まれでロシアを経由して1880年頃に開拓使により北海道に導入された暖炉。